

エグゼクティブ・サマリー

世界経済フォーラムでは、今年も 50 のグローバルリスクを再検討するために、世界中の産業界、政界、学術界、そして市民社会を代表する有識者 1,000 人以上に調査協力を依頼し、その調査アンケートの回答に基づいて「グローバルリスク報告書 2013 年版」をまとめた。

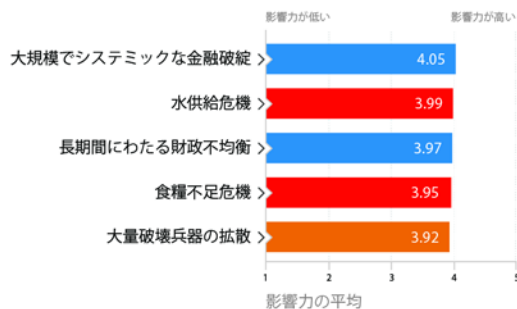
今後 10 年において発生の可能性が最も高いグローバルリスクとして回答者が指摘したのは、「極端な所得格差」である。また、実際に発生すれば最も大きいインパクトをもたらす可能性のあるリスクとして、「大規模でシステミックな金融破綻」が指摘された。さらに、インパクトと発生の可能性の両方のランキングで上位 5 位に入ったリスクが他に 2 つある。「長期間にわたる財政不均衡」と「水の供給危機」だ（下の図 4 を参照）。

図 4: 発生の可能性とインパクト：上位 5 位

発生の可能性



影響力

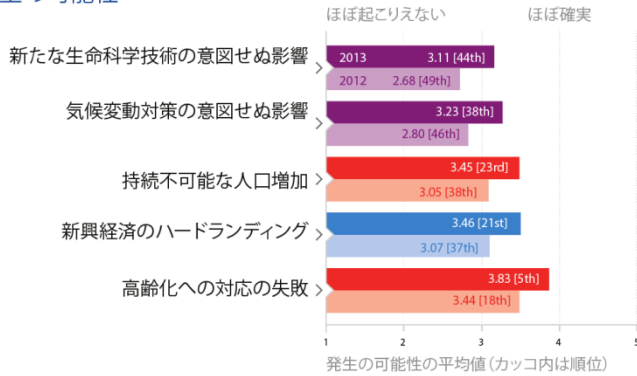


出典：世界経済フォーラム

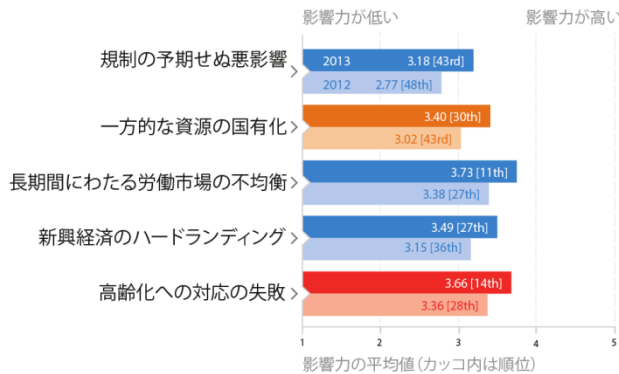
グローバルリスクの中で、実際に起こる可能性が最も高いリスクとして指摘されたのは、「新たな生命科学技術の不測の事態」である。また、昨年の調査結果と比較して、インパクトのランキングで一番順位を上げたリスクは、「規制の予期せぬ悪影響」であった（図 5 を参照）。

図 5：発生の可能性とインパクト：ランキング変化上位 5 位

発生の可能性



影響力



出典：世界経済フォーラム

3つのリスクケース

今回の報告書では、有識者の意識調査の分析及び専門家との協議を行った後、更なる厳密な調査に基づいた三つのリスクケースを提示している。この章では、それぞれのケースにおける、様々なグローバルリスクの興味深い展開、またそれぞれのリスクが世界及び国家レベルに与えるインパクトについて言及している。その三つのリスクケースについては以下の通りである。

経済と環境の弾力性

経済システムの混乱が続いているため、世界の指導者たちの関心は当面、直近の経済問題に集中している。しかし、その間にも地球の環境システムに及ぼす負担は増加する一方である。例えば、この二つのシステムに同時に衝撃が起きた場合、「パーフェクト・グローバル・ストーム」と表現される、解決が非常に困難な事態に陥る可能性がある。特に現在、経済分野では、大胆な金融政策や緊縮財政政策を通じて、世界経済の弾力性が試されている。地球環境においては、温暖化が進み、極端な異常気象が頻繁に起こることにより、地球環境の弾力性が試されている。ある分野において、突然大規模な破綻が起これば、他の分野における効果的で、長期的な解決策に決定的なダメージを及ぼしかねない。財政危機や自然災害の発生が確実に予想されている現在、経済システムと環境システムの弾力性を同時に構築する方法を模索する必要がある。

ハイパー接続世界でのデジタル・ワイルドファイヤー

1938年、アメリカでH.G. ウェルズのSF小説「宇宙戦争」がラジオドラマ化され、あたかも実際のニュースのように放送された時、何千人ものアメリカ人が実際に火星人がアメリカに侵入したと信じ込み、パニックに陥った。今日、インターネットに端を発して似たような社会的混乱が起きたとしたら、その結果、深刻な地政学的混乱を招くという可能性はないだろうか。現代のソーシャル・メディアでは、世界規模で開放されているオープンシステムの中で、膨大な量の情報が瞬く間に交換されている。しかし、ソーシャルメディアにおける行動規範や規則の枠組みは整備され始めたばかりであり、まだ確固とした規範は確立されていない。現代のハイパー接続されたコミュニケーション・システムの利便性については疑いの余地もないが、他方、このようなシステムは、利用者の意図に関わらず、人を惑わすような情報、あるいは挑発的な情報もウィルスが拡散するように広めてしまう可能性がある。例えば、混んでいる劇場で「火事だ!」と叫んだら、実世界ではどうなるだろう。これがもしバーチャルな世界で起きたら、情報の正誤性に関わらず、物凄いスピードで情報拡散されてしまうために、訂正が直ちに配信されたとしても、誤情報による被害は避けられない。ソーシャル・メディアにおける情報発信者や情報消費者に、山火事のように広がるデジタル・ワイルドファイヤーのリスクを軽減するための責任感や判断力をつける方法はあるだろうか。

健康問題と人間の思い上がり

健康システムは重要な課題でありながら、新生流行病や慢性疾患といった挑戦を常に受けている。私たちは科学的発見や新技術のおかげで、度重なる困難を乗り越えてきた。しかし、過去の医学的な成功のおかげで、逆に安全について間違った感覚を持ってしまっているのかもしれない。現代では人命を守る為に最も効果的で最も一般的な方法の一つとして、抗細菌性・抗菌性化合物（抗生物質）が使用されている。しかし、近い将来、抗生物質は簡単には効かなくなる日が来るのかもしれない。抗生物質が投与される度に、細菌には生き残るための進化圧力が生じる。すると、細菌の一部が生き残り、その後も生き残れるように突然変異を起こす。今日までの抗生物質は、効力の弱まった、古い抗生物質にとって代わるように、常に開発されてきた。しかし、人類の革新のペースは、細菌の突然変異ペースにもはや追いついていない可能性がある。大流行病を引き起こすようなキラークロウ菌の変異株には、現在開発されている新薬は一つとして効かないのかもしれない。新種の抗生物質の開発を促す方法、そして抗生物質の過剰投与防止インセンティブを設計する方法はあるのだろうか。あるいは、我々は抗生物質ができる前の時代、ちょっとした引掻き傷が命とりになるような時代へと逆戻りしているのではないだろうか。

特集：グローバルリスクに対する国家の弾力性（レジリエンス）

今年の特集では、国家の制御力や影響力が効かないグローバルリスクに対して、各国家がどのように備えるべきか、という課題を取り上げている。アプローチとしては「システム思考」や、危機から立ち直る弾力性（レジリエンス）という概念を国家に応用して考える方法を提示している。この報告書では、弾力性とは、構造安定性、冗長性、人材・資源の豊かさ、反応力、復活力、以上5つの要因で構成されている。この5つの要因を更に国家内の5つのサブシステム（経済、環境、ガバナンス、インフラ、及び社会）に応用していく。その結果が政策決定者にとって、国家の弾力性の診断ツールとなり、それを使ってグローバルリスクに対する各国の弾力性を評価し、モニターすることを可能とする。

Xファクターと「ネーチャー」

最終章では、大手総合科学雑誌「ネーチャー」の編集者らと共同で作成した「Xファクター」をとりあげている。ここでは50のグローバルリスクを超えた、大きな変革を起こしかねない未知の要因を5つ挙げ、政策決定者に注意を喚起している。

- **暴走する気候変動**：地球環境は、人類が生活し難い難い状態に急速に近づいており、私たちはすでに後戻りできない局面に達している可能性がある。

- **認識能力増強の技術**：スポーツでの薬物使用に似た倫理的ジレンマが、日常生活、経済活動に広がり始めるかもしれない。また、その結果、軍拡競争が起こる可能性も否定できない。
- **地球工学の悪用**：気候操作のための技術が開発されている近年の事例をあげ、国家や個人が地球工学を単独かつ一方的に使用しかねない可能性を指摘。
- **長寿にかかる費用**：医学の進歩で人類の寿命は年々延びている。しかし、長期にわたる緩和ケアは費用が高く、高齢化に際して発生する費用は私たちにとっての新たな難題となっている。
- **地球外生命の発見**：宇宙のどこかに生命が存在するという事実が立証されれば、人類の信念体系に対して深刻かつ心理的影響をもたらさう。

グローバルリスク報告書は、世界経済フォーラムのリスク・レスポンス・ネットワークの主要な研究出版物です。リスク・レスポンス・ネットワークはグローバルリスクへの弾力性（レジリエンス）を構築するために、世界の意思決定者が協力できる方法を探る独自のプラットフォームを提供しています。詳しくは www.weforum.org/risk へ。

[ボックス] 進化し続けているグローバルリスクの展望

例年のグローバルリスク意識調査にて、上位にランクされてきたリスク要因はこれまでどのように変化してきたのだろうか。図6は、過去7年間の上位リスク要因の変遷を示している。報告書のセクション4に示されている通り、リスク要因の全体的な評価は少しずつ変化してきた。しかし、インパクトや発生の可能性の相対的な評価に関しては、それほど大きな変化は見られない。興味深い点としては、「大量破壊兵器の拡散」がインパクト評価で上位5位内にランクされた点が挙げられる。

図6：グローバルリスク上位5位の変遷（2007～2013）

発生の可能性が高いグローバルリスクの上位5位

	2007	2008	2009	2010	2011	2012*	2013*
1位	重要情報インフラの故障	資産価格の崩壊	資産価格の崩壊	資産価格の崩壊	気象災害	極端な所得格差	極端な所得格差
2位	先進国における慢性疾患	中東の政情不安	中国の経済成長鈍化 (<6%)	中国の経済成長鈍化 (<6%)	水害	長期間にわたる財政不均衡	長期間にわたる財政不均衡
3位	石油ショック	破綻国家&破綻しつつある国家	慢性疾患	慢性疾患	不正行為	温室効果ガス排出量の増大	温室効果ガス排出量の増大
4位	中国経済のハードランディング	石油・ガス価格の急騰	グローバル・ガバナンスの欠如	財政危機	生物多様性の喪失	サイバー攻撃	水供給危機
5位	資産価格の崩壊	先進国における慢性疾患	グローバル化の抑制(新興諸国)	グローバル・ガバナンスの欠如	気候変動による災害	水供給危機	高齢化への対応の失敗

影響が大きいグローバルリスクの上位5位

	2007	2008	2009	2010	2011	2012*	2013*
1位	資産価格の崩壊	資産価格の崩壊	資産価格の崩壊	資産価格の崩壊	財政危機	大規模でシステミックな金融危機	大規模でシステミックな金融危機
2位	グローバル化の抑制	グローバル化の抑制 (先進国)	グローバル化の抑制 (先進国)	グローバル化の抑制 (先進国)	気候変動による災害	水供給危機	水供給危機
3位	国家間戦争・内戦	中国の経済成長鈍化 (<6%)	石油・ガス価格の急騰	石油価格の急騰	地政学的紛争	食糧不足危機	長期間にわたる財政不均衡
4位	パンデミック (広域感染症)	石油・ガス価格の急騰	慢性疾患	慢性疾患	資産価格の崩壊	長期間にわたる財政不均衡	食糧不足危機
5位	石油ショック	パンデミック (広域感染症)	財政危機	財政危機	エネルギー価格の急激な変動	エネルギー・農産物価格の急激な変動	大量破壊兵器の拡大

■ 経済 ■ 環境 ■ 地政学 ■ 社会 ■ テクノロジー

出典：世界経済フォーラム

*【註】

2011年以降、リスク調査の手法が大幅に変更されました。2007年－2011年と異なり、2012年－2013年は調査で評価された50のリスク項目のリストに変更はありません。。

